慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	一九一四年末に当り金融の将来を憶ふ
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.4 (1915. 4) ,p.436(72)- 449(85)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150401-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

一九一四年末に當り金融の將來を憶ふ

J. M. Keynes, The Propects of Money, November, 1914, The Economic Journal, December, 1914, pp. 620-627.

高島佐一郎

（一）金準備の二大使命と其第一使命の蹂躙
（二）金準備の第二使命の蹂躙と金放出の大勢
（三）金の過剰と調節せられざる金本位制の危機
（四）戰役影響の一は金の地位の專制君主より立憲君主への推移にあらざる可らず——金爲替本位制を骨子とする國際的協商の緊要

一

英蘭銀行營業報告の現況に接して吾人の注意を喚起する他の問題こそ、思索的興味を誘因し且恐らくは多數他人の思料するよりも更に速に重大なる實際的重要を體現し來る可きものなれ何ぞや、英國並に各文明國に於ける金貨及金準備の將來てふ問題即ち是なり。以下少しく廣汎且思索的なる辯證を試みたる後、復た英蘭銀行の地位に論及す可し。

最近十有五年間、貨幣用に利用せらる可き世界の金保有高は無前の激增を重ね、概算五割を超えたり。而も此尨然たる產金は、多數邦國の其幣制を新しき基礎上に建設したると同時代の時流に乘じたりしが爲に、世界の物價平準に對し革命的影響を及ぼせることなくして克く吸收せられたり。而て此新貨幣制度は當然各文明國の中央銀行及中央銀行の職分を有する大藏省（例へば合衆國の如き）が其準備として保有せる黃金の大蒐集を含蓄せざるを得ずして、斯くて保有せられたる總額は一九〇〇年の約五億萬磅より一九一三年開戰當時の約十億萬磅に增大したるものとす。

金の此大堆積の目的は其保有者に依り唯漠然と意識せらるゝに過きず。是等金の堆積のものたる、一部分盲目的なる流行模倣の結果として又一部分此金の豐富なる供給と、之を輸入するの正統且有利たるを信せられたりし新幣制との時代に於ける殆ど自働的結果として、成立するに至れるものとす。而て現實の金準備額に至ては、極めて稀なる場合に於てのみ深き考量の結果たり、其大多數の場合に於ては其金準備額が其現實に示せる其數字に於てあらざる可らずと謂ふの事實を目して深謀の餘に成れるものと看做す可き理由あることなきなり。又負債に對する金の比率に至りても邦國の異同に依りて著しく相異せり。是等邦國の常變的情勢に關聯して常に其合理的たるを釋明し難きもの多し。而も此比率たる唯偶然の機會と謂ふより以上の理由なくして設定せられたるものに屬し、時代の經過に依りて犯す可らざるものゝ如く神聖化せられたるものゝみ。時として一國の突如恐慌に掀蹶せらるゝや、一九一三年中獨逸等の敢てしたる如く其平常適當と看做せる理想を拋棄することなきにあらず、顧みれば當時獨國銀行家は之に依りて渠等が國際的短期貸付市場に於ける獨逸の地位を測定せし獨逸帝國銀行の金準備上の情勢の到底開戰を許す可らざるものありしを論證したるに拘らず、信用の何たるを知らずして眼中唯彈藥の狀況のみに通曉せる參謀本部は斷乎として速に戰爭の須要とする金額を調達し來らざる可らざるを主張せるを見る可し。然れど今日獨逸の金保有高を測定するの精確なる數字の算術的意義に就ては吾人未だ之を知らず。

抑々之に對して金準備の保有せらるゝ未發負債のものたる性質上必然的に太だ茫漠たるを免かれずして、爲に適當なる比率を算定するの問題すら廣き限界內に於て猶不確定のものたらざる可らず。是の故に何れにするも結局其職分を

遂行せざる可らざるの銀行家は、渠等若し受働的態度に甘んぜば、單なる械械的慣例に依遵するか、或は金の潮流が渠等に致せるものを以て充分なりとして金の其數量を受領す可きは自明の條理に屬す可し。畢竟するに現在の此準備平準には凡て何等の理想的十善の存することなし。過去に於て諸邦國は一層少き準備を以て高踏し來りたり、四圍の情勢の下に今渠等は須らく復た之を以て難問を通過し得可けん。

思ふに中央金準備保有の目的たる之を概觀すれば外國爲替關係を鞏固ならしむる爲め其須要とせらるゝ時には隨時金を解放し以て國內通貨價値の衡平を維持すること竝に金以外の何物も支拂上受領せられざる時之を以て國外焦眉の購買を爲す可き資金を供與することの二箇に盡く。

或難局の勃發するに當り若し金準備の利用せられざることあらばそは畢竟何等の用を爲すものにあらず。是れ自明の條理たりと雖も、憾む可し、英國正統理論たるの此理論は他の世界大多數の邦國に依り認容せらるゝことなきなり、世界の多數文明國に於ては、金準備のものたる或一種の靈驗著しき護符として考量せられ、其の存在は之を散じて價値ありとの觀念とは全然別箇の價値あるものとし、尊重聲譽の支柱たるよりは寧ろ標章として看做さるゝものとす。されば苟くも此思想に順應して違背する所なからんと欲せば、寧ろ金準備を擧げて熔爐に投じ中央銀行出納局長の大なる金像を鑄造し、之を再び取下ろし能はざる如き高き紀念碑上に建立するの勝れるに非らず。一朝若し其邦國の金融的安定に關し何等かの不安の感せらるゝことあらば、其金像を仰いで一瞥を投ずるに依り一國信認の回復立ち所に完からん。若し假に信認の回復せざることあらんには、そは金像の未だ充分に大ならざるを立證せんのみ。(一)

以上に陳述せる所のものは凡て戰前に於ても眞理なりしならん。然れど這次の戰爭は一方に於て此偶像崇拜の多數實例を供給したると同時に他方に於て四圍情勢の極端なる勢力は果して此等崇拜者をして心ならずも其守本尊パラス。アテネの神像 Pallas Athene より金の衣、象牙の袍を剝がしむることなきを得るやの穿鑿心を刺戟したり。果して斯る時來らば何事の發生す可きか。歐洲諸國が他日若し其金準備を使用し始めたりとせば如何の現象生じ來る可きか。不幸此執拗なる質問に對して未だ確然たる答案を發見し得ざるを悲む。

我貨幣本位の價値の安定は大に民衆無智の廣き背の上に支持せらるとするの回顧こそ此僻論を產み來る所以なれ。世上若し何者も無智を排除すること能はざりせば、そは永久に安定の位置を保たん。唯不幸にして四圍情形の大勢力は之を驅りて反對の方向に致さずんば止まざらんとするあるのみ。

或國民が其金準備を使用するの利害關係は唯夫れ自らの利害に關はるに過ぎざると同時に、他の多數國民が一時に其金準備を佚散するは其箇々の利害關係のみに止まる可きにあらず。多數國民の使用する其大なる金は果して如何の方面に致さる可きか。戰時に於ては盡し平時よりも金の需用多からん。然れど一朝若し歐洲の各中央銀行にして其數億の金を呑き出すの止むなきに至らば、そはそも如何の方面に吸收せらる可しとはする。

一九一四年七月末日に於ける重要國中央銀行の金保有高は左の如し。(單位磅)

英國銀行	三八、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西銀行	一六六、〇〇〇、〇〇〇
露西亞銀行	一六〇、〇〇〇、〇〇〇
獨逸帝國銀行	六八、〇〇〇、〇〇〇
獨逸ユリウス要塞內の戰寶	一〇、〇〇〇、〇〇〇
墺匈國銀行	五一、〇〇〇、〇〇〇

北米合衆國大藏省	二四五、〇〇〇、〇〇〇
アルゼンチン政府金庫	四〇、〇〇〇、〇〇〇
ブラジル政府金庫	一〇、〇〇〇、〇〇〇

開戰早々是等金準備の機關は、僅に英蘭銀行及合衆國大藏省を除くの外、凡て一齊の且正式に其銀行劵又は紙幣の兌換を停止し、又英領加奈陀すら正貨兌換を停止するに至れり。否、合衆國の通貨制度は其巨大竝びなき金保有高を以て著大なる金の自由輸出を阻止し、或は弗の國際爲替上の平價を維持するに利用するを許さゞるものあるなり。(二)

要するに是等の諸邦國は其金を死藏したるなり。渠等は之が爲に金準備を保有したる二大目的の一に對し愼重なる金の利用に出でず、換言すれば外國爲替を鞏固ならしむるが爲に其需用せらるゝあらば、隨時金を放出し以て內國通貨の價値不動を保持す可き目的に利用する所なかりき。アルヂェンチン及ブラジルの場合には金準備のものたる恐らく何等の目的を完うすることなかる可し。渠等の一は英蘭銀行以上の金を保有し、他の一も猶巨大の金を擁有するに拘らず、其甘んじて通貨價値の低落を忍び、國際的契約を廢棄又は危殆ならしむるを敢てし、更に其金融財政の運用を擧げて混沌の中に投じて猶憚らざるものありしは正に吾人竝に吾人の祖先が貨幣政策上最も不健全なる謬想たるを永く屢々目睹せし國民的愛金の性癖に依りてのみ說明せらる可きものとす。南米のこと遂にこれあるを期待せられたり、而も是れあるが爲に斷じて正當視せらる可きにはあらざるなり。

註　（一）貨幣價値を確定し、爲替關係を調節して完美ならんことを欲せば、金準備の運用の所謂正統 orthodox たるを要するは論なく、ウイザースが倫敦を以て唯一の金自由市場 free gold market, free market for gold. free market in gold なりとして、ミッシャーが紐育を以て此地位を要求せるを斥けんとせし學問的努力の由來する所も亦之に外ならずとす。See Hartley withers, Money-Changing, pp. 171 174; Franklin Escher, Elements of Foreign Exchange, pp. 126, 127

しかはあれど同時に之を以て曾てゴッシェン卿が英蘭銀行に於ける二千萬磅のものたる、一般民衆の財藏中の二千五百萬磅よりも準備として一層大なる價値ありとすと謂ひ、又近くニコルソンが英蘭銀行に依り保有せられたる金貨は其貨幣價値に依り表彰せられたる同額に比較し、大英王國に對して一層巨大なる重要を具有するものなりと論じたる思潮と矛盾せるものと看做すこと能はず。See Goschen, Essays and Addresses on Economic Question, pp. 102/113; J. S. Nicholson, Banker's Money, p. 33.

前者を實行しつつ後者の目的を完うするの一點において文明國の金準備政策の理想は存在するものなればなり。

（二）此點はアルドリッチ・ヴリーランド緊急通貨法及聯邦準備法の運用と相交渉す。エドウイン・ウオルター・ケンメラーが同誌に寄稿せる合衆國に於ける緊急通貨の發行なる一小編に之を盡せり。See E. W. Kemmerer, Issue of Emergency Currency in the United States.

二

然れど爾餘の諸國は果して何を考量しつゝあるや。渠等交戰國の場合に於ては恐らく金準備の第二目的、即ち金以外の何物も支拂用に受領せられざるとき之を以て海外よりする緊急の貨物購買に充つ可き資金を準備しつゝあるなる可し。

回顧すれば名著（國富論）中最も光彩に富める一節に於て鴻儒アダム・スミスは、渠の時代に於てすら、一國をして外戰を行はしむるに金額を蒐集するの必要極めて稀なる可きを論斷したりき。曰く「過ぐる英佛戰爭に英國の費せる所實に九千萬磅を超ゆたり。……されど此戰費の三分の二以上は海外諸地域即ち獨逸、葡萄牙、亞米利加、地中海諸港、東洋方面及西印度等に於て費されたるなり。當年英蘭土の王公にして平常戰實を堆積し居れるものあらずとすべしと。我國が第十八世紀の中葉に於て既に奈何の戰費を支出するに耐へたるやを牢記す可し。且巨大なる金銀の幇助に俟たずして斯る經費を如何に長きに亘りて調達し得るの能力を有せしやを注意す可きなり。されど是等のこと他交戰國にあ

りてそも如何なる程度まで眞なる可き。（一）

アダム・スミスは更に其論證したる所を制限して曰く「ヒューム氏は屢々古代英蘭土の諸王公の、故障なく長期の外征に從ふこと能はざりしを言へり。當年に於ける英國人は異域に征衣を暴露せる其軍隊の諸給與に充て軍需品を購ふ可き資金を有せざりしのみならず、國内消費を割きて輸送す可き多量の農作物を剩さず、半製品を供給するの力も亦充實せざりき。而も是等の物資の輸送には巨額の經費を須要とす。……されば斯る邦國に於ける君主は此種緊急の需用に對する唯一の資財として、概ね金銀を集積するに努力するなり。かの韃靼諸酋長の凡て戰寶を有するは其所以に外ならずと。（二）スミスの博識なる、更に之に加へて現代に於ては若し普魯西國王の獨り戰寶を貯ふを除外すれば、豫め金銀を蒐集し置くの習俗は今や既に歐羅巴諸國王の軍事政策の一部分すら占めざるを見るに至れりと喝破す史眼炬の如く景仰寔に禁じ能はざるものなくんばあらず。わゝ善謀せる戰寶 war treasure, Kriegsschatzes の蒐集に就て普魯西國王は爾來悠久たる百五十年後の今日に於てすら猶建國理想の繼續を例證す。（三）然れど其他の君主に至りては中央銀行及之に對する支配力に依り均しく戰寶堆積の業を完うするなり。（四）

是の故にアダム・スミスの所見に從へば遠き過去と低級文明國とを象徴するものとせる斯る狀態寧ろ適當に改修せられたる此種狀態は、今も猶近世國民に影響を及ぼし且戰寶の準備をして近世戰爭に有用ならしめ得るや否やを考覈せざる可らず。按ずるに近世戰爭の一層完全なる商業的封鎖、殊に徴兵制度國に於て現に戰爭の齎らせる產業的活動の非常なる減退及戰爭が本國に近き境域に行はるゝ場合に於てすら海外より或重要なる原料品、食料品の供給を受く可き絶對的必要等の事情は茲に相俟ちて戰爭の比較的後期に當り、一國をして金を以てするにあらざれば絶對に海外の供給を受け能はざらしむるに至ることある可し。

露西亞、獨逸及墺匈國の場合に於ては――一方に於て未だ其通貨の猶價値低減を現さゞる佛蘭西に至りては縱ひ將來非常の重要を加ふるに至る可きことある可しとは謂へ、今日猶一問題とするには比較緊急ならずとす――予は茲に二個の概括的結論に到達しず可きを覺ゆ。

露獨墺三國は其巨大なる金準備を保有するに拘らず、平常之が爲に金準備貯藏を合理的ならしむるの二目的の一を故らに廢棄して顧みざりき。渠等は開戰以後早忙の短期日内に於て各其通貨が爲替相場に依り測定すれば海外支拂の目的上一割を下らざる低落を爲すを看過したるなり。（五）獨逸の場合に於ては金準備のものたる最近遠謀せる努力と敢然たる政策との結果著大の增加を示せる世人の汎く知る所なり。されば此巨額の黄金を保有するの名聲より轉來せしめ得可き一切の心理的利益を除き、是等の金準備は少くとも何等の或實質的目的の爲に堆積したることを豫想せざる可らざるなり。交戰の或後期に際し、海外よりする必要品の輸入を須要とするも、金以外何物を以てするも其目的を達し難き時、敢然として其金準備を手放さんとするの企圖を除けば、復た何の目的をか有す可き。

又假に一歩を讓り、是等邦國の當局者にして今日斯る明確且合理的なる意圖を有せずとするも、四圍の情勢てふ至上の大勢力は遂に渠等を驅りて茲に致さしめずんば止まざらんとす。抑々爲替相場低落のものたる、單純に國家の聲譽信用を毀損し銀行界に不利不便を與ふるに止まらずして、實に海外よりする購入を困難ならしむる、寧ろ益々困難ならしむるの象徴若くは前兆たるものとす。何物かの輸出を以て其支拂に充てざる限り、事實上全然輸入を爲し能はざる

とき、爲替相場上の一點（金輸出點 a gold export point）は即ち容易く且突如として襲ひ來らん。時既に茲に至れば金以外何物を以てするも即座に利用せらる可きものならんとす。思ふに物質的に將た地理的に獨逸をして物資を得しむるの多數邦國あるは爭ふ可らずして商業的封鎖の效力を誇張するの愚に陷る可らず。然れど獨逸は如何にして其物資の支拂を完うす可きか爲替狀態は斯くして金の輸出を爲すにあらざれば渠は日に益々困難を加ふるを發見す可し。

註（一）アダム・スミスの卓洛透徹の識見、其原著を通讀するに依りて愈々憬仰するものあり。此條りはラウトレッヂ版の左の箇所にあり。see Adam Smith, Wealth of Nations, p. 334.

註（二）同上、Ibid, p. 337 然に "Every Tartar Chief, accordingly, has a treasure" の一句骨を刺すものあり。

註（三）同上、Ibid., p. 334「今や世上普魯西國王を除けばの一節を引きて獨逸帝國一八七〇年來の誇り、實にリーサー博士等の說に獨戰準備 Kriegsbereitschaft の一部として誇稱措かざりし「シュパンダウのユリウス塔内の戰寶 Kriegsschatzes im Julinsturm zu Spandau の制度を輕く揶揄し來る所眞にケーンスの妙筆を見る可し。

註（四）中央銀行に對する支配力に就きても其最も組織的なるもの吾人は亦之を獨逸帝國銀行に見るなり。獨逸帝國に於て吾人は金融的參謀本部 Finenzieller Generalstab の一語の深甚なる意義あるを覺ゆ。 Riesser, Die deutsche Grossbanken S. 22 fussn., 23.

註（五）是れニコルソンの所謂貨幣價値の比較的低減 specific depreciation にして、一般貨物に關する一般的低減 general depreciation にあらずと雖も、前者の遂に後者の中に inter alia 存す可きは必然の勢なりとす。 see J. S. Nicholson, Indian Currency and the Gold Exchange Standard, The Economic Journal, June, 1914, pp. 243, 244.

三

上文に記する所を要言すれば世界無前の大戰爭の敵味方として今や遠く慮りて其蓄ふる所の金を吐き出さんとし、又斯く企圖せずとするも内外の情形は金放出を匡制せずんば止まざるものとす。

且つや歐羅巴の大金準備よりする金の規則的涓滴は既に始まれるを示しつゝあり。十一月始め露西亞の倫敦に對し七百萬磅を積送せる旨の極めて意味深き報導に接すると同時に、獨逸も土耳古に向け巨大の金を輸出せりと推測せられ、又最近アムステルダムにも金の輸送ありしとの風評を傳ふ。一歩を讓りて以上の未だ眞ならざるを假定するも其早晩到來す可きは疑を容れずとす。吾人は日々に露西亞より、獨逸より墺匈國より、將た亦爭鬪遷延せんには佛蘭西よりも、確固たる金の涓滴の流れの發す可きを豫期せざるを得ざるなり。

此金はそも何人の取入るゝ所となるか。何處に流れ何處に行くや。世界は既に金に食傷し其飽和點に達せり、今世界の需用するものは金貨幣にあらずして貨物にあり。されば最近十五年の新產金の斯る巨額の貨幣價値に於ける革命的變化を喚起せずして、自然的たる新需要に依り故障なく吸收せられたると同一方法に於て、此金の太流を吸收し得可きものを信せず。

金需要の可能的資源を回想するは此場合閑文字にあらず。寧ろ金の使用を節約し得可き新銀行制度に今や發途せんとする北米合衆國は、其既に其適當なる貨幣制度の需用には充分なる金保有高を有するありて、其れ以上の金流入を須要とせず。（一）加奈陀及南米諸國の金吸收の能力殊に後者の能力は職として其海外より借受け得るの力量如何に依り左右せらるゝもの、其重要なるものなきや論なし。蓋し世界の眞の遊離資本の戰爭上の需用の爲に吸收せられ、減損せられたる今日の狀況を以てし、是等の債務國が來る可き近き將來に於ては巨資を借入れ得るの地位にあらざる可きは明かなればなり。唯過剩の遊離資本の幻想を產み來る所の人爲的金融小康のあるありて、是等の邦國の起債を可能なら

しむ如き外見あるのみ。一九一三年に入り埃及は始めて紙幣の廣汎なる使用に依りて金を節約す可き力法を採用したり。土耳古は到底、ものになる可くもあらず。hors de combat 印度は縱て其力ありとするも、平常より多額の金を吸收し得可きの途なし。顧みて支那を見れば渠は金本位制の採用に對し何等有效なる手段を採ることを能はざるの狀態にあり。而て世界の殘餘諸國は殆ど凡て戰爭に參加す。（二）此時に當り世界の全金鑛は其新產金に對する從前の流出口の大多數が斯く其門戶を閉ぢたるあるに拘らず、依然として年額約九千萬磅の割合にて採金を續行するならん。（三）

茲に至りて吾人が安全に希ふ所の凡ての幻想のものたる、斷乎たる事端の一大勢力に依り巨額の金が何處にか驅逐せらる可きことを是なり。金は恐らく逡巡せる且食傷せる市場に向ひ前代未聞の數量に於て齎らさる可し。實に正しく世界が眞の資本 real capital に太だ缺乏しつゝあるの此瞬間に於て、結局未曾有の金融康安の外見を呈す可し。而て極端なる貨幣の豐富と極端なる貨物需用の緊急とが同時俱發を見るとき茲に必然の歸趨として貨幣購買力上に非常なる一大減退や來らざる可らず。

思ふに斯る重大複雜なる事件に就き豫言者の態度に出づるは愼むべきものなり。歐羅巴大陸諸國に至りては恐らく其力の限りに於て最極の時期まで渠等の憧憬措かざるの金像を維持するなる可し。戰局若し彌久せざらんには渠等は其金保有高の殆ど全部を持堪へ得ん。又戰敗者にして縱ひ償金を支拂はざる可らざるに至るも、渠等は猶其金準備を維持せんことを欲し且維持し得ることも必無にあらざる可し。

然れど他方に於て世界の殘餘大部分の金融市場に於ける人爲的金融綜慢の觀念を產み出す可きほどの程度に達す可き金の涓滴流出の發生す可きは予を以て見れば殆ど其確實なる可きを信ずるなり。而て其少くとも「調節せられざる金本位制」unregulated gold standard の存續並に安定を危殆ならしむるの程度に到る可きは疑なき所なりとす。（四）

註　（一）合衆國大藏省の現に保有する金約二億三千萬磅、之に加ふるに一九一三年末施行の運に到れる聯邦準備銀行の發行法の金節約力はコナントの一論文の示すが如きものありとす。（拙稿、通貨政策と歐洲大戰（四）、國民經濟雜誌三年三月號一二八頁參照）

註　（二）是れ吾人の先覺の讖尾に附して、在外正貨制度の廢止此秋にあるを論ずる所以なり。讀者恐くはウイザースの名著「貨幣の變換」中の一節に於て、氏が本邦の幣制を目して金爲替位制 gold exchange standard を施行するものたるを論斷せる條りあるを發見したるならん。是れ一面に於てはケーンスが「印度の財政及通貨」中に詳述せしが如き利益の伴ふことある可しと雖も、こは金爲替本位制に於てすら猶疑議ある所に屬するものたらざるを得ず。吾人は須らく此機會に於てウイザースの謬見を啓發し、其來る可き新服に於て之が訂正せらる可きに實物教訓を以てせんこと

を希ふものなり。see Withers, Money-Changing, p. 8.

註　（三）此點ウイザースの地金銀市場の記述を參照す可し。see Ibid., pp. 166 168.

註　（四）アーヴイング・フイッシヤーの大著「貨幣の購買力」の大目的の一も實に茲に在りて存す。（高城氏譯述「貨幣と物價」第十三章第五節、著者の提案參照）

四

少くともリカードーの時代以降多數經濟學者は諸文明國が貨幣本位の動搖の其支配權內に存する場合に於て猶適正なる抑制を加へず、之を赴くまゝに放任するに依り、無益に其社會及經濟制度の急激且專認なる攪亂に對し其邦國を暴露せるを信じたりき。而て縱ひ到底完全を以て免す可らずとは謂へ、少くとも現在吾人の有するものよりは一層善美なるの貨幣本位の貨幣を調節するの方法を案出するは必ずしも至難の業にあらず。通貨の諸問題を革新するには、先づ一般民衆をして斯くある可きを確信せしむるに依りて其實行の途に就き得るものとす。（一）問

題の理論上及學問上の部分は既に解決せられたり。唯意思と確信との未だ來らざるのみ。又此大業たる政治家及金融家社會に餘り多くを依賴す可らず。蓋し斯る變革のものたる渠等も亦大多數民人と同じく其注意を逸し易き題目たればなり。

通貨に關する大多數の革新と殆ど凡ての僻論的思辯とは庸劣且危險にして、深き不信の標的たるもの尠なからず。而て此問題の特殊研究を爲さゞるの多數人士に對しては正僻辯別し難く智愚分劃し難からんとす。されど金本位制の根蔕を震撼するの一大團圓的變化は吾人を擁して正否を明別するの必要なるを訓ゆるものあるなり。

是の故に現下戰爭、寧ろ戰爭の瀰久するに比例して益々爾がある可き戰爭の有り得可き結果のものたる――予は未だ其確からしきを確信すとは言明し能はず――本位の或國際的協商の遂に世界の重要諸國を張制するにある可きを思ふ金が遂に吾人々類の上に揮へる其專制的支配權より廢棄せられ、一立憲君主の地位に下り立つことにして、若し果して現國民的抗爭の戰後影響の一たることの立證せられんには、始めて光輝ある貨幣史の一新章は開かるゝなる可し。人類は今や其各自の希望に依り其資產を支配す可き勢力に於て自治體一の到達に一般の巨步を運ぶならん。然らんとき吾人は前時代の特徵として過去の史的事件の上に、微妙にして深玄なる且無心にして屢々看せられたる貴金屬の各般勢力を記錄せんる欲す。新しき龍は冒險者の暴力より金のフリースを防護す可き新しきコルチスに建設せらるゝなる可し。A new dragon will have been set up at a new Colchis to guard the Golden Fleece from adventurers

（大正四年三月七日稿）

註（一）經濟施設殊に通貨政策の改善を策するもの須らく此遠大なる用意を須要とす、吾人之をフイッシャーに見今ケーンスに同じき用意覺悟を發覺するなり。マーシャルの曾て經濟的施設の改善は漸進的なる性格とすと說き、「自然は飛躍せず」Natura non facit saltum. とは啻に自然界の現象に限らざる可きを高調す、see Marshall, Principles of Economics, p. 249. 右兩氏の提案に付此用意あり、且予の見る所を以てすればケーンスの調節せられたる貨幣本位の遂に必至の勢たるを說くに依りて其意味する所は正にフイッシャーの「補正せられたる弗」の精神に共鳴するものたる可きを思ふ。但し後者が純乎たる金爲替本位の擴張補正にあるに反し、前者が金貨流通に對する態度は此一文に依りては全く解し得可らず。然し乍らケーンスの「印度の通幣及金融」に示せる思想を以て之を類推し得可しと假定せば少くとも金爲替本位制を骨子とするの國際的協商を意味するものたるは蓋し爭ふ可らずとす。フイッシャーの學說主張提案に就ては既に高城ドクトルの長短篇數十之を明徵にして疑議を遺せず、希くは本稿を讀むの人復た其未だ粗策なる形式に肉付く業績の少きを憂へざる可し。

（二）アッシュレーは其近著に於てハーバート・スペンサーの「人類對國家」に示されたるホッブスの所謂「總ての人に對する凡ての人の爭鬪」Bellum omnium contra omnes の思潮を排するの歸躔に萬丈の光虹を揚げたり蓋し此意味に外ならずとす。see W. J. Ashley, The Economic Organization of England, pp. 190, 191.（大正四・三・七稿）

福田博士に答ふ

高岡麗雄

福田博士は昨年十二月より三回に亘り本誌に於て「歐洲戰亂期に於ける英佛兩國大小農制度に關するアーサーヤングの研究」なる問題の下に種々研究の結果を發表せられたり而して其の中本年一月號第四十七頁に於て余が昨年社會政策學會第八回大會に於てなせし講演に論及し「高岡博士が我邦農民の耕地面積の小に過ぐるを論し平均一町四反の面積なかる可からずと主張せらるゝもの或は農民一家の生計を標準として立論せらるゝにあらざるか果して然りとすれば予は遽かに其論の全部に贊和するを得ず」と論ぜり博士がヤングに付さて論ずるに當り余の報告に言論及せられしは余の感謝する所なり余は常に本邦小農民の耕作面積が餘りに狹少に失する弊を見之を擴張せざる可からざる必要を認め居るを以て昨年の社會政策學會の大會に於ても小農保護策として重きを此點に置きて立論せしは事實なり然りと雖余は博士の說かるゝ如く